

三田学園高等学校3年生保護者各位

令和元年8月27日

# 高校3学年学年通信

〈Vol.8〉 高3学年担任団

## ご挨拶

処暑の候、皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は、学年の教育活動にご理解とご協力をたまり、厚くお礼申し上げます。

夏休みが終わり、本日より2学期の始まりです。各クラスでは、次のように語ってもらいます。

夏休みを乗り越えた皆さん、よく頑張っていました。自信をつけつつある人、自信を失いかけている人。さまざまな心境の人がいると思います。同級生同士、お互いの気持ちを察しながら、2学期を乗り切りましょう。模試の成績に一喜一憂しないで。学習しているのだから、間違いなく学力は付いていますよ。



まだまだ先は長いです。そうっておいてほしい。中には「頑張れって言われるのも辛い」という心持の生徒もいる。保護者の皆さまにおかれましては、ナイーブな子どもたちに接するお役目、大変な事と思います。さて、この2学期、ほんの一時期ですが、学年の雰囲気が大きく変わります。9月18日が体育大会です。おそらく、その1週間前あたりは、それ一色になるかとおもいます。こんな時期に大丈夫なの？と思われるでしょうが、前号に書かせていただいた通り、これが伝統になっております。しっかりした子は、どんなイベントがあっても自分のペースを失いません。楽しむところを楽しめたら、気分転換になって次に頑張れる、という子もきっといるはずです。

## 時にはお休みしましょう

やっぱり健康第一です。もちろん、受験する子どもたちの健康については、各家庭でさぞかしお気づきの事だと思います。ただ、私どもが思うのは、「保護者の皆さまも、どうかお身体を大切に」ということです。「支える側にも辛さがある」ことは、私たちもすごく理解できます。子どもが倒れたら、大人が支える。大人が倒れたら…きっと支える人がいる。でも、中には「私がしんどいとは言えない」と思っていられちゃう方もおられるのでは。どうか、不調の時はしっかりお休み下さい。きっと子どもたちは、支える側に回ってくれるはず。その時、成長を感じていただくことができるのでは。

これから季節の変わり目。気づけば朝夕冷え、秋が去り、冬がくる。お子さんは本番を迎える。その時に寝込まれたとする。

「大丈夫！頑張ってくるから、ちゃんと寝てて！」

わが子の成長が実感できるって、こういう時ではないでしょうか。…でも、どうか皆さま、ご自愛ください。



## 今後の予定

8月28日(水)・29日(木) 全統記述模試

\*午前で終わりますが、28日の理系国語受験者のみ、午後もあります。

30日(金) 午前中授業

9月11日(水) 体育大会予行

17日(火) 体育大会準備

18日(水) 体育大会

\*保護者の皆さま、どうか最後の行事です。お優しい目で見守って下さい。

20日(金)・21日(土) 進研・駿台マーク模試

体育大会ですが、雨が降った場合は順延となります。ちなみに、18・19日と雨の場合、19日は模試になります(20日が体育大会)。順延は24日(月)が限界とのことです。沖縄に晴天をもたらした神様が、もう一度微笑んでくれることを祈っています。良い天気になりますように。

## 「努力すれば何でもできる」そう信じて、何が悪い

『和をもって日本となす』(ロバート・ホワイティング 1989)は、野球を通じた日本とアメリカの比較文化論ですが、その中にこんな一節があった。ある外国人選手が日本の野球界に評してこう言い放つ。

「奴ら(日本の野球人)はすごいよ。練習は万能だと思っているんだ。努力すれば、出来ないことなんて無い、と思っている。」これは、決して誉め言葉ではありません。耳の痛い皮肉なのです。

- ・「自分のやってきたことが正しい」そう信じて、選手の向き不向きを無視して型にはめる。そんなコーチがどれだけ多いか。そして、伸びずに消えていった選手がどれだけいたか。
- ・「限界を超えたら、初めて成長するんだ」そう言い聞かせ、試合の前でもおかまいなしに走らせ、投げさせ、時には罵倒する。あれは指導じゃない、軍隊のシゴキだ。

今から30年も前の著作ですから、ずいぶん古い話もあるかもしれない。

そう、ここで外国人選手が批判しているのは、従っている選手ではなく、指導者の姿勢です。

「努力すれば、出来ないことはない！」時として良い言葉ですが、時として大いなる間違いを生む。

「打率2割3分の打者に、死ぬほど走りこんだら打てると言うんだよ、日本のコーチは。でも、ちょっとばかり体の頑丈な2割3分のバッターが生まれるだけだ。打率は変わらないよ。」

「打率がどうすれば上がるか」本質的なことを指導できずに、しんどいことを強制していないか。これらは野球に限らず、日本の教育に対する評価と一致する部分が多い。

今、アクティブ何とか言っていますが、どれだけ本質的に日本の教育は変わろうとしているか。

「どうすれば考える力をつくか」本質的なことを指導できずに、…以下上記と同文です。

ただ、上記の外国人選手は、従う選手たちには同情的です。「もうちょっと手を抜く賢さが必要だけどな、あのひたむきさは、俺たちも見習わないといけない」。そのひたむきさは、もっとうまくなろうという純粋な気持ちから生まれるものです(プロですから、生活もかかっていますが)。つまり、努力する側はまず、変に自分で限界を決めるより、「なりたい自分」に対する憧れを持つことが大切。「できる、やれると信じて、何が悪いの」それでいい。逆に、その子の向き不向きや限界を見極めた上で、周りの者は支えるべきだと求められている。実に難しい話になってしまいました。でも、昔もそうした優れた指導者・保護者がおられた。今もおられます。まだまだ未熟と反省しきりです。